



平成 24 年 9 月 7 日

各 位

会社名 ヒラキ株式会社
代表者名 代表取締役 向畑達也
(コード番号 3059 東証第二部)
問合せ先 取締役経営戦略室長
今本清治
(TEL 078-967-4601)

氷上山南店の閉店および業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 24 年 9 月 7 日開催の定時取締役会において、ディスカウント事業部における氷上山南店(兵庫県丹波市)につき、本年 10 月 28 日をもって閉店することと決定いたしました。併せて、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 24 年 5 月 8 日に公表の業績予想を修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 氷上山南店の閉店について

同店舗については、平成 22 年 3 月期において収益性の低下が見込まれたため、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、店舗土地建物の時価評価を行い、帳簿価額との差異を減損損失として 77 百万円計上いたしました。その後、収益性の向上を図るため、売場の強化や販売管理費の節減等に尽力いたしましたが、商圈人口の減少や競合他店の出店等の影響により、今後も利益確保が困難であると判断されます。

平成 10 年 5 月に氷上山南店を新規出店して以降、14 年以上にもわたり丹波地域のおお客様にご愛顧頂いておりましたが、店舗閉店を決定いたしました。

なお、店舗土地建物は自社所有であることから、倉庫利用あるいは賃貸等の活用を検討しており、店舗閉鎖に伴う損失計上は僅少と見込まれます。

2. 連結業績予想数値の修正

(単位：百万円)

(1) 平成 25 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正

(平成 24 年 4 月 1 日～平成 24 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	11,100	420	310	170	35 円 42 銭
今回発表予想 (B)	10,600	200	160	90	18 円 74 銭
増減額 (B-A)	△500	△220	△150	△80	—
増減率 (%)	△4.5	△52.3	△48.3	△47.0	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 24 年 3 月期第 2 四半期)	11,024	408	285	156	32 円 51 銭

(2) 平成 25 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	22,000	780	620	340	70 円 83 銭
今回発表予想 (B)	21,200	620	500	280	58 円 33 銭
増 減 額 (B-A)	△800	△160	△120	△60	—
増 減 率 (%)	△3.6	△20.5	△19.3	△17.6	—
(ご参考) 前期実績 (平成 24 年 3 月期)	21,664	721	589	△344	△71 円 57 銭

3. 修正の理由

(1) 平成 25 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間連結業績予想について

通信販売事業におきまして、販売実績の分析から新商品開発までのプロセスの短縮化、店舗靴売場における売れ筋情報を通信販売事業へフィードバックする体制の構築など、商品力の向上に取り組み、お買い得感のある新商品を各種投入いたしました。新規顧客の獲得数が伸び悩み、第 2 四半期連結累計期間における売上高は、前回予想数値を若干下回る見込みとなりました。

また、ディスカウント事業におきましては、「靴の強化」に取り組み、岩岡店では広さ・内容ともに「日本一の靴店」を、他の支店では「圧倒的な地域一番店」を目指した売場づくりを推進したことで、靴の売上高を伸ばすことはできましたが、靴以外の商品における競合店との価格競争の激化等により一部店舗での客数の減少が影響し、同期間における売上高は前回予想数値を下回る見込みとなりました。

利益面につきましても、引き続き徹底したローコストオペレーションに取り組んでおりますが、売上高の減少に伴い、前回予想数値を下回る見込みとなりました。

(2) 平成 25 年 3 月期通期連結業績予想について

通期連結業績予想につきましては、第 2 四半期連結累計期間における業績予想を反映しつつも、通信販売事業において、より強力な新商品をタイミングよく発売していく計画であることや、ディスカウント事業において一層の仕入体制の強化を行うとともに人材を集中して店舗改革を推進することで売上高を確保いたします。利益面につきましても、経費節減の徹底と販売効率の向上を図ってまいります。

また、平成 24 年 11 月以降、氷上山南店の閉店に伴い売上高が減少いたしますが、不採算店の閉鎖により、利益面では改善が図られることとなります。

なお、前期実績として、ディスカウント事業において特別損失（減損損失）を計上したことにより当期純損失となりましたが、当期においては減損損失の兆候は認識されず、当期純利益を計上する見込みです。

上記理由により、公表の業績予想を修正いたします。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上